



「普天間飛行場⑧」

はじめに

今月は市教育委員会が昨年度に実施した普天間飛行場内での文化財調査の内容と現段階での成果を速報として紹介します。

昨年度は普天間飛行場内の南東側で文化財調査を行いました。調査地一帯では字宜野湾、字神山、字赤道など各地域に関わりのある文化財が過去の調査で確認されていました。

文化財調査の内容

調査では、まず始めに遺跡などの文化財が残っていないかを確認するために試掘調査を行いました。この試掘調査では、土の堆積状況（地層）や昔の人々の活動の痕跡などを確認することができ、遺跡が残っている場所や大まかな年代、範囲などを把握します。

試掘調査で大まかに遺跡の情報を把握した後は、その遺跡がどのような種類なのか、どのようにして作られたのかなど詳しく知るための調査を行いました。

調査の成果

試掘調査を実施したところ、字神山や字赤道の地域で戦前まで行われていた農耕に関わると考えられる跡や昔の人々が地面を掘り込んだ跡などを確認すること

ができました。また、試掘調査前の伐開

作業では、戦前の屋敷跡などが字宜野湾地内で確認されました。今回の調査を行ったことで、普天間飛行場内の戦前までの状況をまた一つ把握することができました。たとえば、戦前の屋敷跡について、当時の住まいが石の柱を用いてその上に屋根を葺いたこと、建物の壁の一部には盛土をした後にその上に石積みをつけて石の隙間を土で塞ぐなど、当時の生活の知恵を窺うことができました。今後、文化財調査をおして当時の生活の一面を把握し、その情報を市民の皆様にも知ってもらえるきっかけをお届けしていきたいと思えます。

問合せ：文化課 ☎89314430



調査で確認された戦前の屋敷跡（宜野湾古集落）

茶ぐわーゆんたく

137

夏のおわりに・・・

沖縄の長い夏もそろそろ終盤、トンボが飛んでいるのをよく見かけます。

世界中の熱帯から温帯に生息しているウスバキトンボは、市内でもよく見られます。そのヤゴはあらゆる水域で育ち、約一ヶ月で成虫になるため、短期間で多くのトンボが発生します。

ところで、9月は台風がよく到来する時期です。皆さんは「トンボの群れが飛んでいると台風が来る」と聞いたことはありませんか？

台風前に群れで飛んでいるのは、このウスバキトンボです。風によって群れで移動することから、市内の多くの地域では方言で「カジフチャーマー（風吹きトンボ）」「カジフチャーケージュ」と呼ばれています。昔の子ども達はターマトウエー（トンボ捕り）といい、飛んでいるトンボを追いかけたり、竹の先を割ってその間にクモの糸を張り、それを使って捕って遊んでいたそうです。

また、今の時期に見られるのはトンボだけではありません。

朝と夕方に「グーワ、グーワ」と虫の声が聞こえれば、それはクロイワツクツクというセミの仲間です。クマゼミよりも小さく、体長3センチほどのセミです。独特な鳴き声から、市内では方言でそのまま「グーワ」と呼ばれ、8月下旬から11月に多く見られます。

木と木の間に大きな網を張り、トンボやセミを捕まえるのはオオジョロウグモです。日本最大のクモで、メスの体長は5センチほどあり、脚を合わせると大人の手の大きさを超えるものもいます。市内では、方言で「エーキクーバー」と呼ばれています。8月から10月に見られ、森川公園を散歩するとよく見かけます。

普段は気に留めない身近な生き物たちですが、ふと意識してみるとその姿や声から秋の訪れを感じます。



▲ウスバキトンボ



▲クロイワツクツク



▲オオジョロウグモ

「宜野湾市史」への問合せ
市立博物館 ☎870-9317

